



平成 21 年 10 月 28 日

各 位

会 社 名 株式会社 ジェイホーム
代表者名 代表取締役 加藤 篤彦
(J A S D A Q ・ コード 2 7 2 1)
問合せ先 経営管理室長 池永 宏之
電 話 0 3 - 6 4 3 0 - 3 4 6 1

平成 21 年 12 月期通期業績予想の修正について

最近の市場及び業績動向を踏まえ、平成 21 年 7 月 30 日にて発表いたしました「平成 21 年 12 月期第 2 四半期累計期間業績予想との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」について、以下の通り修正いたします。

記

1. 平成 21 年 12 月期の業績予想の差異及び修正について

(1) 平成 21 年 12 月期通期業績予想の修正(平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 12 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株あたり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 1,652	百万円 75	百万円 63	百万円 63	円 銭 5,902 55
今回修正(B)	996	14	3	2	236 94
増減額(B)－(A)	△655	△61	△60	△61	—
増減率	△39.6%	△81.4%	△95.2%	△95.9%	—
(ご参考)前年実績 (平成 20 年 12 月期)	806	△64	△62	△34	△4,095 33

(2) 通期業績予想の修正理由

わが国経済は、昨年秋以降の世界的な景気悪化による企業収益、個人消費の低迷が続いております。外需の復調と内需の底上げによって一部に回復の兆しが見えるものの、企業収益の低下や雇用・所得環境が悪化しており、今後も企業における設備投資の抑制、個人消費の低迷が継続するものと推測されます。

このような状況のもと、通期の業績予想を精査した結果、既存事業の状況に加えて、第 3 四半期からスタートしたスポーツ事業(フットサル施設運営)及び業務提携先である株式会社ダイキョウのノウハウを使った空調関係の工事などについて、次のとおり当初予想から下回る値に修正いたします。

売上高につきましては 9 億 96 百万円(前回予想比 6 億 55 百万円減)。営業利益につきましては 14 百万円(前回予想比 61 百万円減)。経常利益も同様に 3 百万円(前回予想比 60 百万円減)。また当期純利益も同様に 2 百万円(前回予想比 61 百万円減)となる見込みであります。

以下はセグメント別の業績予想であります。

①住宅F C事業

当社にとって住宅F C事業は安定した収益に大きく貢献する事業であります。しかし昨今の住宅市況の悪化で、資金繰り等が悪化している既存F C加盟店が一段と増加傾向にあります。

当社におきましては、新規加盟店の獲得はもとより、既存加盟店に対するサービスの向上を目指しておりましたが、現在の市況の中、加盟店の退会、休会を避けることができませんでした。このことから、年度末に向けて新規加盟方法、加盟条件について一部見直しを図ることで、新規加盟店の募集活動を積極的に行うことを検討しております。

売上高においてはほぼ計画通りに推移することが予想されますが、利益面では売上を構成するロイヤルティ関係の売上と、販促品関係の売上との構成比が変わったことにより営業損失の増加が見込まれております。

この結果、前回業績予想売上高1億48百万円、営業損失10百万円に対し、売上高1億48百万円（予想比0百万円減）、営業損失15百万円（予想比5百万円増）となる見込みであります。

②ウェブダイレクト事業

当初戸建新築2棟の引き合いがあったものの、住宅市況の悪化による消費者の買い控えなどの影響が強まり、いずれも年内の契約は困難な状況にあります。

この結果、前回業績予想売上高60百万円、営業利益5百万円に対し、売上高0百万円（予想60百万円減）、営業利益0百万円（予想比5百万円減）となる見込みであります。

③住宅資材販売事業

第3四半期から当社の業務提携先である株式会社ダイキョウと共同で行う、業務用エアコン関係の工事を進めることで、業績への寄与を見込んでおりました。しかし、8月に株式会社ダイキョウの中心メンバーらの退職があり、その補充が十分にできなかったことから、当初想定していた、株式会社ダイキョウが持つエアコン事業を、当社の顧客網並びに当社資材販売先に対して販売するという展開が思うように進みませんでした。これにより大きく計画を下回ることとなりました。

現在、株式会社ダイキョウにおいては営業ノウハウを蓄積することにより営業スキルの標準化を進めており、今後はシナジー効果が発揮できるよう推進してまいります。（前回予想売上高5億50百万円、今回予想売上高1億58百万円、予想比3億91百万円の減）

昨年から現在に至るまで、販売が好調である火災警報器については、各市町村等の取り付け義務化による追い風により第3四半期までの販売は堅調に推移いたしました。しかし、昨年の実績から、第4四半期以降も前回予想通りの販売が見込まれておりましたが、火災警報器の仕入先メーカーによる製品の自主回収の影響で販売が困難なことから、計画を下回る見込みであります。（前回予想売上高2億96百万円、今回予想売上高2億12百万円、予想比83百万円の減）

太陽光発電については、「住宅用太陽光発電導入支援対策費補助金」を機会とした受注に加え、環境に対する関心の高まりを背景に、冷暖房費を1/5に削減することが可能となる商品「nesta」を発表したことにより、ほぼ予想どおりに推移する見込みであります。（前回予想売上高30百万円、今回予想売上高30百万円）

加盟店向けの資材販売は、F C加盟店の退会・休会、また新設住宅着工戸数の減少などの影響を受け、計画を下回ることとなりました。（前回予想売上高2億40百万円、今回予想売上高2億04百万円、予想比36百万円の減）

また、当社のスポーツ事業進出を機会として、遊休地（スーパー屋上、ゴルフ練習場、テニスコート等）の地主様を中心とした、フットサルコート建設工事の引き合いが現在2件あります。

当初想定していた工事よりも若干小規模なもので、年内2施設の引渡しを目指しておりますが、計画を下回る予定であります。(前回予想売上高2億円、今回予想売上高85百万円、予想比1億15百万円の減)

以上住宅資材販売の主なトピックスをもとに、前回業績予想売上高13億48百万円、営業利益56百万円に対し、売上高7億73百万円(予想比5億75百万円減)、営業利益14百万円(予想比42百万円減)となる見込みであります。

④スポーツ事業

当第3四半期会計期間から新たにJFCスポーツバンガード株式会社から購入した3店舗の運営がスタート致しました。

当初3店舗においては、JFCスポーツバンガード株式会社の前年度実績を踏まえ、当期の計画を見込んでいたものの、夏場の天候不順が響き、フットサルスクールやイベントの不振により、想定よりも下回ることとなりました。

この結果、前回業績予想売上高95百万円、営業利益23百万円に対し、売上高75百万円(予想比20百万円減)、営業利益15百万円(予想比8百万円減)となる見込みであります。

以 上